平成 27 年秋季ビーチクリーニング

小田島 厚（東船大 N15）

動きの遅い台風18号と秋雨前線の停滞で日本の至る所に記録的な大被害をもたらした最悪な天候状態が続く中、今回のビーチクリーンアップは、その間隙を縫っての劇的なタイミングともいえる好天に際会し、９月12日、第26回鵠沼海岸ビーチクリーンアップが挙行されました。

今回は、いつものボランティア勇士の出足が悪く、開会式が近づいても小人数しか集まらず、近年には珍しい総勢約50名という家族的、ピクニックムードの中でのゴミ拾いとなりました。

我ヶ海洋会の会員は、３名の海洋大学の学生を含め15名と全体の比率では群を抜いており、ライトブルーのユニフォームがひときわ目立っておりました。総人数が協会スタッフより少し多いくらいの人数構成ですから、収集ゴミの処理に関し、通常より協会のスタッフが我々に関与する度合いが多くなり、忙しさは頂点を極め、汗が噴き出る状況でした。

「海を守るため、一刻を争う」というコンセプトで、スイスのある団体がレース用のヨットを使って、プラスチックゴミの調査や海洋のゴミについて啓発活動を行っている事を皆さんはご存知でしょうか。海に面していないスイスがどうして、と思いますが、当団体の会長は、「スイスは海に面してはいないが、海洋のゴミ問題を知って、何かをせずにはいられない。来年以降はラボ機能を備えた船で調査を予定している」と言うから驚きです。近年の異常気象が大災害・大惨事をもたらした事もその要因となってでしょう。

我が国のボランティア活動もメンタル面・フィジカル面での救援気運が年々高揚・醸成され始めてきたように思われます。一方、これら成熟しつつある活動を支えるべく御本尊において現状のボランティア活動について穎脱（えいだつ）した政策・思索が適

鵠沼海岸にて

参加者（敬称略）

橋本　進　　戸苅　清　　北沢　昌永
早津　義彦　　安田　岩男　　林　作治
小暮　文吾　　辻村　京子　　清原　久和
中野　弘隆　　小田島　厚
鳥光　悠太（海洋大）　小林　基史（海洋大）
佐々木涼平（海洋大）

以上　14名

切になされているのでしょうか。各年齢層が高い目線でボランティア活動を模索し、行動するようになった現在、協会自体が過去にとらわれず、より現実的な、効率的な実のある道筋を辿る政策づくりをすべきではないでしょうか。鵠沼海岸は、日本一ゴミの少ない海岸であることには間違いありません。確かに、湘南地区のレジャー層は、高いマナーを具有しているようで、一部のゴミを除いてゴミらしき物は殆ど見当たりません。協会は、当海岸のゴミが激減している点、日本一綺麗な海岸である点を自画自賛しています。が、逆に参加人数が年々減少傾向を辿っています。ゴミの減少と参加者の減少とが関係なければいいのですが……。居住環境の保全、改善及び被災者への救援活動、支援活動をもっともっとグレードアップすることを主眼として、我がグループは、ボランティア意識の醸成・再認識をニュートラルな立場から、担当省庁・ＮＰＯ法人に対しもっとアピールし、軌道修正させ誘導させる何らかのアクションが必要かと考えています。

然は然り乍ら、我が海洋会のビーチクリーニング・グループも時の流れに流されっ放しでいる訳にはまいりません。我々を取り巻く社会は、急激な変化を呈しています。これまで絶大なる勢力で世界を統治していた巨大会社がある日突然、奈落の底に落ちることは今や定番となっています。海洋・船舶に対する意識変化も例外ではありません。このような状況下で、ビーチクリーニング・グループを今後如何に維持管理し、発展させるかが、目前の課題となっております（他のボランティア・グループも同様ですが）。これに効く特効薬はありません。心の触れ合いを根元に外況の動きを見つめながら、ヤング（大学生をも含め）、ミドル、エルダーが共に歩調を合わせて行くことが最大の特効薬ではないでしょうか。皆様のボランティア活動の参加を切に願っております。